

足立議員 経済再生へ

公共投資拡大が不可欠

自民党の足立敏之参議院議員は6日に国政セミナーを開き、コロナ禍からの経済回復について、「建設産業の再生なくして、日本の再生なし」と述べ、公共投資拡大の必要性を強く訴えた。写真。

足立氏は、コロナ禍で2020年度の実質国内総生産(GDP)が前年

度比4.6%減と、オイルショックやバブル崩壊、リーマンショックを上回る戦後最大の下げ幅とな



ったと説明。こうした中、民間投資が大きく落ち込む一方、公共投資が4%増となったことを踏まえ、「民間投資の減少を公共投資の増で補っている構図は明らか」とした。さらに、この20年間の日本と諸外国との公共投資の伸びを比較。各国の公共投資が順調に伸びる中、日本は半減したとし、日本のインフラ整備水準が諸外

国と比べて貧弱になっていることを指摘した。

その上で「公共投資が伸びている国がGDPの伸び率も大きい。日本の経済成長のためには公共投資の拡大が不可欠」と強調した。

国政セミナーには国會議員の林芳正外務大臣や、日本建設業連合会の宮本洋一会長らがいさつ。その後、土木学会の谷口博昭会長による基調講演「コロナ後の日本創生と建設業」も行われた。